

ぼうさい通信 Vol.97



毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和8年4月16日発行
熊本県立湧心館高等学校

今月のテーマ「熊本地震から10年」

平成28年熊本地震の発生から令和8年4月で10年という大きな節目を迎えます。この節目の年に、犠牲となられた方々への哀悼の想いを胸に抱き、これまでの復旧・復興の歩みを振り返り、さらには復興を支えてくださった全ての方々への感謝の想いを新たにしたいと思います。

また、熊本地震10年関連事業が開催され、基本理念として「様々な人の「想い」や「記憶」をつなぎ、熊本地震の「教訓」、多くの支援への「感謝」を胸に、地域の「つながり」、「絆」を力として、安全・安心で災害に強くなやかなまちを目指し、「未来」に向けてこれからも進み続ける「決意」を新たに」とされています。

事業全体のコンセプトは「**支えられた日々を、支え合う力に**」です。この言葉には、「これまでのご支援や地域での支え合いを胸に、今度は私たちが誰かを支え、助け合える社会を築いていきたい」という願いが込められています。

“今を生きる、私たちは、このような熊本の想いを大切に、地域と一緒にって社会生活を進めていきましょう。

「熊本地震を振り返ってみます」

■前震(現在は、前震・本震・余震の定義をなくし、すべての揺れを“地震”の表現へ変更)

- ①4月14日21時26分、一連の地震で最初の地震が発生し益城町で震度7(計測震度6.6)を観測しています。熊本県の嘉島町では、地震直後に震度情報が未入電となり、震度5弱以上と推定されていました。中部地方の一部から九州地方にかけての範囲で震度1から震度4を観測していました。
- ②4月15日0時3分に熊本県熊本地方を震央とする最大震度6強の地震が発生しています。気象庁が発表したこの地震の震央は、最初の地震の震央より南西に約5.5kmずれています。

※この一連の地震は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ、この地方で一般的な「右横ずれ断層」型であり、北北東-南南西方向に伸びる震源断層を持つと推定されています。政府の地震調査委員会は、日奈久断層帯(約81km)の北端部に当たる高野-白旗区間(約16km)の活動によるものとの見解を発表し、地震前、同区間で将来M6.8程度の地震が発生すると推定し、発生確率は不明としています



※地震後の熊本城



■4月16日地震(本震…前震同様、現在、すべての揺れを“地震”の表現へ変更)

1時25分に最大震度7の地震が発生し、気象庁発表の地震の震央は、4月14日に発生した地震より西北西に約4.5kmずれています。この地震の最大震度は当初、震度6強とされていましたが、気象庁に送信されていなかった熊本県益城町と熊本県西原村の震度計のデータを同庁の現地調査で解析した結果、震度7を観測していたことが判明し、4月20日に訂正されました。4月14日21時以降2018年(平成30年)4月13日までに一連の地震で震度1以上の観測地震(有感地震)は4,481回発生しており、うち最大震度4以上は145回発生しています。最初の地震から1年間の有感地震は4,297回で、内陸または沿岸で発生した地殻内地震としては、震度計による観測が始まった1996年4月以降で最多となっています。なお、気象庁は、複数の地震を一つの地震としてカウントしていた地震について精査を行い10月11日に発表しました。精査の結果、最大震度1以上の地震回数が確定し、最大震度5強の地震が1回(15日0時6分)、5弱の地震が3回(14日23時43分、16日3時9分、16日9時50分)に増えるなど、修正が加えられました。



熊本地震を経験した私たちは、これら地震の記憶や経験、教訓を風化させず後世に伝えていく必要があると思います。また、地震から10年経過した今だから考えることがあります。南阿蘇に整備された「熊本震災ミュージアム KIOKU」において、震災遺構を見学し、地震のメカニズムを学び、備えること。そして、新たに県庁敷地内に建設された熊本県防災センター(令和5年5月運用開始)において、地震のみならず豪雨についても学習し、防災知識と技術を身に付け、自分自身と周囲を守る災害対応のノウハウを学ぶことが可能となっています。私たちは、そのために防災の知識やスキルを向上できるように日々研鑽を積んでいくことが必要だと思っています。

過去のぼうさい通信を見ることができます ◎ぼうさい通信(毎月16日発行)
本校HPにアクセスしてみよう。 <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/>

くまもとマイタイムライン(デジタル版マイタイムライン)は、
<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/#/>で作成可能です。